

教えて！江口先生！！



今回は不登校の保護者の相談に長年対応されてきた江口先生に、不登校の子をもつ保護者の方たちから寄せられた悩み、疑問などに答えていただきました。

江口 昇勇（臨床心理士）

大学院教授を歴任され、個人開業やスクールカウンセラー、児童福祉臨床に従事する。パルクとよたでは、青少年専門指導相談員として、保護者や教員からの相談を数多く受けている。

〈はじめに〉

親が自分の価値観から子どもの行動を決めつけて、親の思い通りになるようにあれこれ働き掛けを行い、それがうまくいかない子どもを責めたり、否定したりすることがあります。子どもの行動の奥にあるものをどれほど推測できるかで対応が自然と見えてくるはずです。

親の思惑を忖度して無理して頑張ってきた子が、これ以上遂行することが無理と感じて、不登校になっている場合が多いです。だから、親は子どもが自分を守ることによっていいいいになっているという認識をもつことが大切です。

家でゲームや動画サイトばかり見えています。取り上げると暴れるのですが、どうすればよいですか。



むやみに取り上げるのは注意が必要です。例えば、親との会話を避けるためにゲームを楯にしている場合もあります。子どもを追い詰めるとますますゲームに固執し、埋没してしまいます。子どもがゲーム、動画サイトに没入するには必ず意味、訳、理由があるからです。



中3です。進路の話をするとうもきいてくれません。



進路を考える余裕のない子にそれを話題にすることは弱っている心にナイフを突き刺すようなものです。子どもは自分を守るため黙らざるを得ないのです。

むしろ今日は学校の選択の幅が広がり、様々なバイパスコースが準備されています。在宅で高校も卒業できるし、大学受験資格を得て行きたい大学に入っていく人もいることを伝えて「心配ない、大丈夫」と安心感を与えることが大切です。



共働きで不登校の子を家に置いて仕事に行っています。どのように考え、接していけばよいですか。



親が子どもに不必要な罪悪感をもたないことが大切です。親が子どもに罪悪感をもつと、子どもに迎合的になってしまい、毅然としなければいけないときもそれができなくなってしまいます。適度な距離感をもつことで、よい親子関係ができます。

不登校が続き、この子が自立していけるか心配です。



「自立」が他人に世話にならずに生きていくこととイメージすると、それは寂しい孤立でしかありません。上手に周りの助けを活用して生きていく術こそ人として大切なことです。自分に自信がもてるように、関わってあげてください。

「見守れ」と言われますが、見守るってどういうことですか。



どんなことをしても「信じているよ」と伝えることが見守ることです。それは一番難しいことですが、細かいことには干渉せず、どこまでも子どもを信じて、気持ちに寄り添ってあげましょう。

兄が不登校で、弟が「兄のことをずるい」と言って行きたがりません。どのように弟に伝えればよいですか。



まず、「ずるしているものではないよ。お兄ちゃんなりに苦しんでいるよ」と弟さんに伝えてあげてください。その上で、弟さんの行きたくない理由も聞いてあげましょう。別の理由で苦しんでいるかもしれません。

家では全く勉強をしません。学習の遅れが心配です。



学習の遅れはその気になればいつでも取り戻すことができます。本人が気付いてやり直せば、大体はリカバリーできます。好奇心や自分で知りたいことを調べる動きが出てきたときに、必要なサポートをしてあげてください。

あのとき、あの瞬間



不登校のお子さんをもつ保護者の方は、不安や悩みを抱えていても、なかなか打ち明けたり、聞いたりすることができないのではないのでしょうか。今回は、過去にお子さんの不登校を経験された保護者の方に、その時の思いや今の様子についてお話していただきました。

Aさん（16歳・高校生）の母

小3頃から登校渋りがあり、そういうリズムの子だと思っていましたが、小5になり、休みが続いたときは、何とか行かせたいという思いで、あとは、家族だけでは何ともならないから、学校の先生も含めて、周りの方に状況を隠さずに話して、助けてもらえればと思っていました。かかりつけの病院にも、何か助けてもらいたいと思っていました。今思うと、すごく本人を苦しめていたなと思います。

父親は、結構穏やかな人なので、私一人が、困っているような感じでした。だから、父親に何とかしてほしいと思っているところもありました。ただ、父親自身も、子どもが学校へ行けない現実を見ることへの恐怖や、自分の接し方が悪いと病院の先生に指摘されるかもしれないという不安を抱えているようでした。

中学校では、慣れではないですが、「こうなったら、多分、しばらく行けないだろうな」というような見通しが立っていたのかもしれませんが。ただ、卒業後のことは心配でした。やはり先はまったく考えることができなくて、内申や出席など、目の前の一つ一つのことを心配する感じでした。だからその当時は、小学校の時あれだけ本人が苦しんでいたなら、「なんだ、休ませてあげればよかったじゃん。」と思いました。

小学校の修学旅行あたりから行けるようになりましたが、中学校では、また行けなくなった時期もありました。その理由は、本人も私も、正直よくわかりません。

Bさん（25歳・社会人）の母

最初不登校になった時は、理由や原因を探して、早めに登校できるようにしなくてはいけないと焦っていました。何が理由かわからないと、子どもに理由を聞きたくなりますが、今思うと子ども自身もはっきりと分かっていなかったと思います。ジリジリと焦る気持ちを抑えて、子どもになるべく不安を与えないように、あまり先のことで考えすぎないようにしました。学校へ行くことを強要しないように、でも行く気になったら少し背中を押してあげられるように、無理強いをしないけど、少しは強引に引っ張り出すという加減が難しかったです。時には、スクールカウンセラーに話を聞いてもらうこともありました。本人のやりたいことはなるべくやらせるようにし、学校以外にもいろいろな場所があることを知ってもらうために、興味をもっていた、鈴鹿サーキットのスクールに参加させるなどしました。同年代の子と合宿をするなど、学校以外の場所に友達ができ、人とかかわりがもてたことは本人にとって大きかったようです。

学校の先生方にも、たくさん支えていただきました。担任の先生が子どもに会いに定期的に自宅に足を運んで下さり、本人との関係をつくってくれました。それが、細々とではありますが、部活動や行事に参加するきっかけとなり、中学校に進学するタイミングでもう一度学校に行くという本人の気持ちを後押ししてくれたと思います。

現在は、人の気持ちに寄り添うような仕事がしたいという思いから、スポーツジムのインストラクターをしています。小学校の勉強が抜けているため、漢字が読めないなど困ることはあるようですが、社会人として自立できています。当時のことを振り返ってみると、子どもが不登校になったときに、一人で抱え込まないことが大切だと思います。時間が解決するとは限りませんが、「少しゆっくりする時間が必要な時もある」と今思います。

「ラポール豊田親の会」 主催 青少年相談センター「パルクとよた」

講師の先生をお招きし、学校に行きづらくなっているお子さんのことについて一緒に考えてみる会です。

開催月：11月・2月予定 ※学校を通じてお知らせがあります。

※その他にも、民間団体など様々な親の会があります。HPなどを検索してみてください。

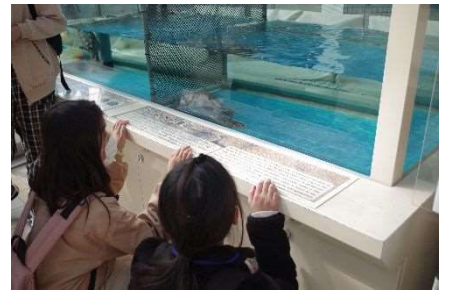
「ラポール体験活動」

豊田市では、「ラポール体験活動」を実施しています。令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できませんでしたが、今年度は再開することができ、名古屋港水族館へ遠足に出かけました。子どもたちは展示されている水槽の中の生き物を見るだけでなく、ペンギンのフィーディングタイムやマイワシのトルネードショーなどのイベントスケジュールに合わせて、グループで相談しながら計画を立てて活動する姿がありました。他にも南極観測船ふじの船内を見たり、名古屋港ポートビルの展望室から名古屋港を一望したりして、楽しい時間を過ごしました。

＜参加者の感想＞

- ・初めて会った子と同じグループになりました。最初は気まずかったけれど、話をしながら一緒に行動するうちに仲良くなりました。(中1)
- ・年下の子に楽しんでもらえるように計画しました。イワシのトルネードを楽しんでいるのを見て嬉しかったです。人のためにがんばることは、自分の心も満たされることを感じました。(中3)

過去には、名古屋市科学館、中部国際空港フライトオブドリームズ、コカ・コーラボトラーズ東海工場にも行っています。



豊田市の子育てにかかわる相談窓口

相談機関	相談内容	電話番号
青少年相談センター 「パルクとよた」	不登校、いじめ、家庭教育、特別支援教育	33-9955
家庭児童相談室 (市役所子ども家庭課)	子どもの養育上の悩み	35-1152
豊田市こども発達センター	発達に関すること	32-8981
豊田市社会福祉協議会	ボランティア団体等が行っている子どもの居場所に関すること	31-1294
豊田加茂児童・障害者 相談センター	養護、非行、障がい、健全育成、里親に関すること	33-2211
はあとラインとよた	子ども・青少年についての保護者の悩み、本人の悩み	31-7867
とよた子どもの権利相談室 「こことよ」	子ども自身の悩みや子どもに関すること	0120-797-931
とよた子育てコール24	救急医療や子育ての相談(24時間・365日)	0120-799-192